

★アジア太平洋戦争敗戦記念8・15シンポジウム★

開催趣旨

「国家そのものを賭けものにして賭場にほうりこむようなことをやったひとびとがいた」「なんとおろかな国にうまれたことかとおもった」と、作家・司馬遼太郎は1945年8月15日に終戦の放送をきいたあとの憂憤をもらす(『この国のかたち①』1990年文藝春秋刊を参照)。

なぜ、多くの国民を巻き込んで、そのような狂信的行為(ファナティズム)が可能であったのか—他の巻④で司馬は、「日本国の通弊というのは、為政者が手の内、とくに弱点を国民に明かす修辞というか、さらにいえば勇気に乏しいことですね」と述べている。司馬の歴史観への賛否はいろいろある。しかし、『この国のかたち』が炙りだした光景をよすがに、「戦争と平和」をとともに考えたい。



日時：8月15日(木) 13:30 開場、14:00 開演

会場：東京ボランティア市民活動センターA・B 会議室(セントラルプラザ 10階、JR 飯田橋駅、地下鉄「飯田橋駅」B2 b 出口)

参加費：@1000円(当日受付で支払、申込先着80人定員〆切)

●シンポジウム(前・後半に分け、休憩の後、質疑応答、16:40 終了予定)

パネラー

①沖縄の暗雲を晴らす・・・・・・・・・・・・・・・・三宅 千晶(弁護士)

②9条の理念で地球平和憲章をめざす・・・・・・・・堀尾 輝久(東大名誉教授)

③自衛隊も米軍も、日本にはいない!・・・・・・・・・・・・・・・・

花岡 蔚(「コスタリカに学ぶ会」会員)

コーディネーター

・・・・・・・・・・・・・・・・矢間 秀次郎(季刊『奔流』編集人)

●詩集『九条川』の朗読

詩人：高橋 嬉文(「千曲川・信濃川復権の会」会員)

主催：千曲川・信濃川復権の会(季刊「奔流」編集部) ☎FAX 042-381-7770

後援：東京大空襲を忘れない実行委員会

申込先：h-yazama@oregano.ocn.ne.jp にご芳名・住所、電話番号を明記、または右のQRコードでどうぞ!